

せんたくもの

市川 いちかわ 卯里子 うりこ

夏休み、ちよつとだけいつもより、おそくおきた。かおをあらいに、せんめんじよに行きました。かごいっぱいの、せんたくもの。お母さんは、3回も4回もせんたくきをまわします。まだ、ほす前のせんたくものが、山のようになっている。みんなのいえも、こんなかなーと、思った。お母さんに、「ようふくやタオルが山のようにだね。」と言った。お母さんは、「みんながたくさんあせをかいたでしょ、お父さんが、かぞくのためにしごとをがんばつてくれたあせと、子どもたちが、たくさんあそんでかいたあせの山だよ。」そう言つて、お母さんは、ペランダにせんたくものをほしに行つた。わたしも、いつしよについて行つた。「ねえー、お母さんまい日大へんじゃない？」お母さんは、「しあわせ」と、言つた。「しあわせ？」「がんばつてかいたあせじゃない。」そうなんだー。わたしは、ほかのいえのせんたくものを見ると、あつちにもこつちにも、しあわせがほしてある。と、思った。しゆくだいをおわら

せ、お母さんとおとうとと、かいものへ、でかけた。わたしは、ほかのいえのせんとくものが
気になり、ペランダばかり目がいつちやいました。夕がた、お母さんが、せんとくものをとり
こみに行った。たたむのをあと回しにして、お母さんは、夕ごはんのしたくをしている。い
つもは、テレビを見てまっているけれど、今日は、あの山をわたしがたたんであげよう！と、
お母さんにないしょでたたんだ。たたんでも、へらないせんとくものの山。「おふるに入る
よー」と、お母さんが、わたしとおとうとをよんだ。せんとくものをそのままにしておふる
へ行った。あせをかいたようふくを、せんとくかごへ入れた。わたしは、ごはんをたべて、し
ごとからかえてきたお父さんの、あせをかいたようふくと、よごれたくつ下を、せんとく
かごに入れて行った。またあしたおきたら、かごいっぱい山の山になっているのかなーと、思い
ながらお父さんとお母さんに「おやすみ」と言つて、ねむりに行った。つぎの朝おきて、よう
ふくダンスのひきだしをあけると、きのうわたしが、とちゅうまでたたんだようふくの山が、
きれいにたたんでしまつてあつた。また、がんばつてあせをかくためにきもちのいいきれいな
ようふくをきられる。「しあわせ」なのは、わたしたちのほうだよ。わたしは、やつぱりお
母さんに「ありがとう。」が言いたくなくなった。